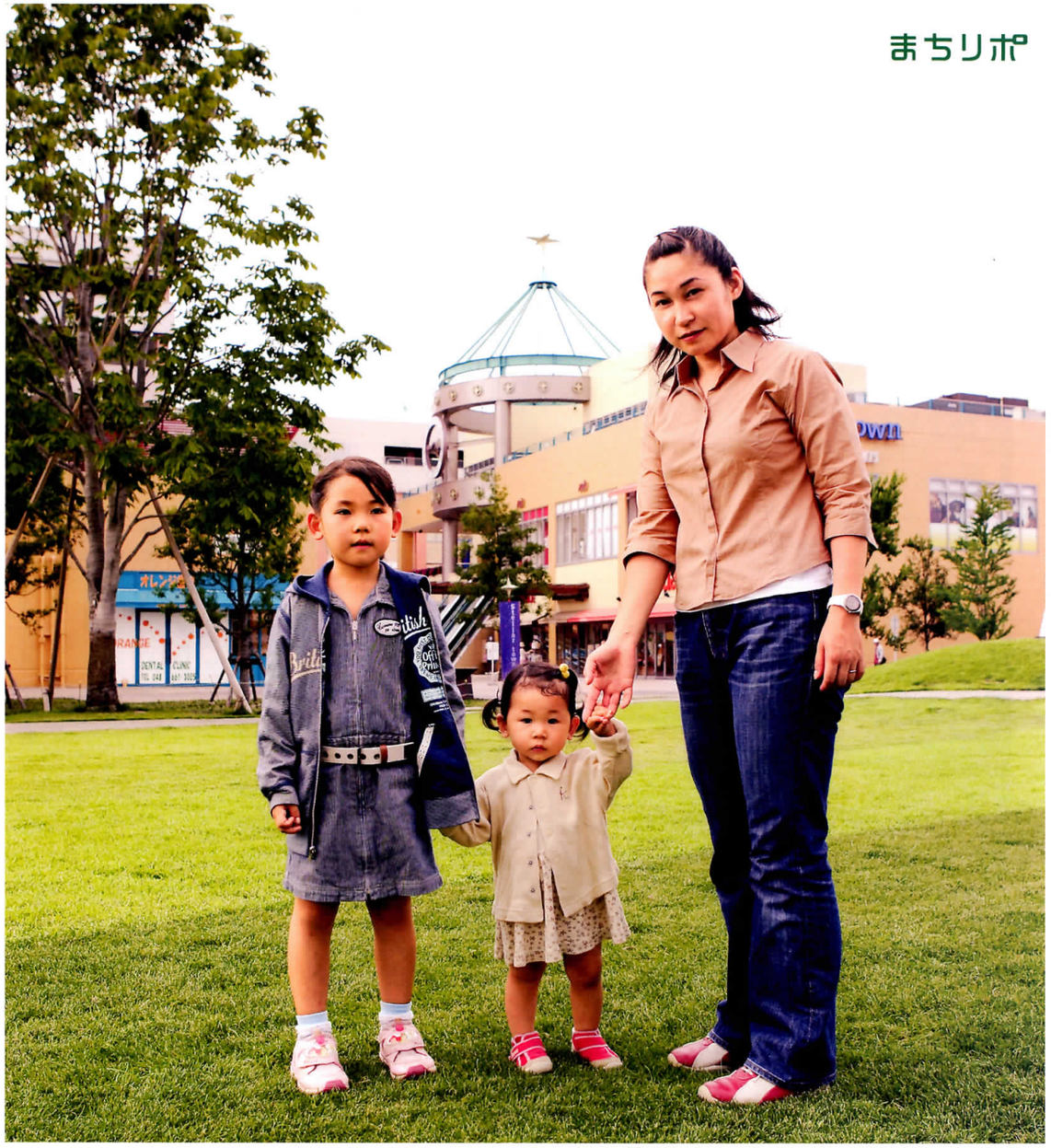

和田聖華（わだせいか）さん
夫、6歳と1歳半のお子様の4人家族。テニス、バドミントンなどを楽しむアクティブ派。
「子育てをしていく上で、まちづくりについて知ることも大事なことだと思っています」。

from Kitamachi 「きた」の新スポット体感！

市民リポーターがまちづくりの現場を見に行く「まちリポ」。
今回訪れたのは、さいたま市の副都心としてその一翼を担う「きたまち」です。
大宮駅から北に約3キロ、北区役所や「ステラタウン」などが建つ、
新しいまちが昨年秋に誕生しました。
このまちの秘密に、浦和区在住の和田聖華さんが迫ります。

区画整理ってよく聞きますが…

「ステラタウン」には何度も買い物で来ています。でも、まちづくりのことは何も知りませんでした。今回、実際にまちを歩いてわかったことをリポートします。

この場所、戦前は大宮競馬場で、全国三大競馬場のひとつとして人気があったそうです。戦後、富士重工業の自動車工場に変わり、その工場跡地を市が整備して、新しいまちが誕生しました。

計画的にまちができた背景には「区画整理」がありました。土地所有者が少しずつ土地を出し合い、道路や公園、下水道などの生活に欠かせない公共施設と、敷地を一体的に整備したのです。ここは、約31ヘクタール（東京ドーム約6個分！）もあります。もしもバラバラに整備したら、広い道路や公園はできないし、工事を進めるにも効率が悪く、住む人や訪れる人にとっても魅力的に映らないでしょう。計画的にまちをつくるために区画整理を用いた意味がよくわかりました。

市民が参加してできた「クネクネ道」

近くで、おもしろい道を発見しました。閑静（かんせい）な住宅街を通る一方通行の道路が、約150メートルにわたって、まるでヘビを描いたようにクネクネと曲がっているのです。

見ていると、向こうから来たトラックが自然にスピードを落とすのがわかります。きっと「ここから住宅地ですよ」とドライバーに警告するインパクトがあるのだと思います。このように歩行者や自転車が安全で快適に通れるよう、車道を蛇行（だこう）させたり、植栽などを設けた道を「コミュニティ道路」と呼ぶそうです。

この道は、沿道の皆さんが新しいまちの誕生を機に、人も車も増え、交通事故が起こることを心配して、行政と協働で検討したそうです。何度もワークショップを開いて、みんなで考えた結果です。こんなふうに市民がまちづくりに参加できることも初めて知りました。とても良いことですね。

さらに公園は「しまして」でした!?

東西に約500メートルもある細長い公園があります。その名も「きたまちしまして公園」。何が”しまして”かというと、芝生の色なのです。2種類の芝生が交互に植えてあります。その方向は富士山と筑波山を結んだ軸に沿っていると聞いてさらにびっくり！”しまして”、奥が深いです。

子どもが大喜びだったのが、地面から噴水がピョンピョンと小さく飛びはねる「水の劇場」。雨水を利用していて、ヒートアイランドの抑制にもつながる環境に配慮された遊び場です。

歩道が広くて歩きやすいのも、このまちの魅力のひとつ。実は、ここの建物は歩行空間を広げるために、塀や植栽を少し引っ込めているそうです。建物の外壁の色や植栽もルールをつくって一体感をもたせているとのこと。こうした新しいまちにふさわしい景観づくりが評価されて、全体のデザイン調整などを行った「さいたま市北部拠点宮原地区まちづくり協議会」に今年6月、「国土交通大臣表彰」が授与されたそうです。

これから北区役所や図書館・ホール などが入る複合公共施設や、日帰り温泉などの民間施設もできるようです。ますます魅力的に進化する「きたまち」、今からとても楽しみです！

きたまちしまして公園の東西の延長には、西方向に富士山が、東方向に筑波山がある。2つの山のパワーをもらって、心も体もリフレッシュ。

「絵タイルベンチ」は、地区周辺の小学生約450人が、まちづくりに参加して描いたもの。「きたまち公園通り」に59基設置されている。

地区内からニューシャトル加茂宮駅に向かう幅6〜8メートルの道路が、市民の意見を反映してコミュニティ道路として整備された。

民有地が、デザインと空間を歩道と共有することで、広い歩行空間を実現した。

噴水がある「水の劇場」は、子どもたちに人気の場所。近くにはミュージアムのようなトイレや、ちょっと変わったベンチもある。